

## 陳 情 文 書 表

受理番号	陳情7第10号	受理年月日	令和7年2月5日
件 名	区民センター再開発について、「目黒区美術館の保存」も含めた幅広い可能性を検討することを求める陳情		
<p><b>【陳情の趣旨】</b></p> <p>2024年12月の特別委員会にて、建築費高騰により区民センター再開発（めぐろかがやきプロジェクト）は公募を中断、業者との競争的対話を中止する事が発表された。また、2025年1月の新聞報道によると、下目黒小学校を除く再開発計画については白紙とするとの見方も出ている。計画を白紙とし再スタートするにあたり、下記を要望する。</p> <p>目黒区美術館は下記の理由により、取り壊しの必要性は低く保存の優先性があるものと思料する。</p> <p>①【築年数と財政負担】1987年竣工と、区民センター本体（1974年竣工）よりも築年数が浅い事に加え、主に御影石（みかげいし）など堅牢な素材で作られている。海外の美術館では100年を超える建築物もある中、2025年度で築38年という築年数の浅い建築物を建て替える合理的理由はなく、区の財政を不要に圧迫する。</p> <p>②【建築・文化的価値】建築家の業界団体「日本建築家協会（JIA）」から保存要請があるなど、建築としての価値が認められている。また、エントランスに建物と一体化する形で展示されている原口典之氏の作品「構造への興味」、杉本貴志氏が率いていた「スーパーポテト」が設計協力したラウンジなど高い文化的価値も有する。</p> <p>③【環境への影響】解体と再建工事に伴い大量のCO2を排出するため、政府および目黒区の掲げる「ゼロカーボン宣言」に逆行する。</p> <p><b>【陳情事項】</b></p> <p>上記の要因を考慮し、今後作成される区民センター再開発計画については、目黒区美術館の保存も含めた幅広い可能性を検討すること。</p>			